

認知症の 私から見える 社会

目次

はじめに

- 第1章 認知症の人たちの言葉から
- 第2章 認知症の人の目の前にある「現実」
- 第3章 「やさしさ」という勘違い
- 第4章 「あきらめ」という問題
- 第5章 工夫することは生きること
- 第6章 認知症と共に生きる



この本が出来て1番驚いているのは私自身かもしれません。
たしかに私が書きましたが、なぜ、このような文章が書けたのか不思議なのです。

私は300人を超える当事者と出会いゆっくりと話をしてきました。
その裏には多くの人達の力があり、みなさんのおかげで当事者と会うことができました。
そして支援者のみなさんと楽しく会話をさせてもらってきた結果、
今回本の文章につながったのだと感じています。
みなさんに感謝しています。

今回の本は当事者の言葉なので、家族や支援者からしたら、
「家族や支援者は大変なのに」という意見もたくさんあると思っています。
ずっと悩み何度も仲間に見せて、本当にこの文章で傷つかないか、伝わるのか、
不安になっては何度も読みなおして、出来上がりました。

実は今でも、この本を読んで傷つき悩んでいる人がいるのではと考えています。しかし今までは、当事者が口にしてきた本音を言葉に、形にしてこなかったと思うのです。

病気になって周りに心配や迷惑をかけているのがわかるので、当事者もあきらめてきたことかもしれません。

仮に数年前にこの本を出しても受け入れてくれなかったと思います。

徐々に社会も変わってきての今だからこそ書けた文章なのかなと思っています。

これも、今まで発信してくれた当事者のおかげで、

そして当事者の言葉を聞こうとしてくれたみなさんのおかげなのです。

私は常に不安を持った当事者が 1 人でも笑顔になってほしいと思い活動しています。

家族の存在や支援者の存在をけっして無視しているわけではなく、

当事者が笑顔になることが、家族や支援者の関係性が良くなり、

みんなが笑顔になることだと信じているからです。

言葉が足りなくて、当事者ばかりと言われることもありますが、

みんなが笑顔で過ごせることを願っています。

今回のイベントでみなさんからの意見をきちんと受け止め、私も考えていくイベントにしたいと思っています。

どうぞよろしく願いいたします。

丹野智文

第22回 認知症当事者勉強会 オンライン勉強会

10月2日(土) 13:00~16:00

の冒頭のメッセージ